

福岡学園における事務 DX 勉強会と成果について

亀井 愛¹⁾, 赤間 尚希¹⁾, 平野 太一¹⁾, 長崎 聖子¹⁾, 真島 晃子²⁾

1) 福岡学園 福岡歯科大学, 2) 福岡学園 福岡看護大学

kamei@fdcnet.ac.jp

Report on Office DX Study Session and Outcomes at Fukuoka Gakuen

Ai Kamei¹⁾, Naoki Akama¹⁾, Taichi Hirano¹⁾, Shoko Nagasaki¹⁾, Akiko Mashima²⁾

1) Fukuoka Dental College, Fukuoka Gakuen, 2) Fukuoka Nursing College, Fukuoka Gakuen

概要

福岡学園では 2024 年度の事業目標として「ポジティブな職場環境を構築するため、DX 推進やメンタルヘルスに関する研修を実施する。」を掲げた。ここでは事務職員が自分達で主体的に DX を推進したくなる環境を整備するために企画した「事務 DX 勉強会」の実施状況とその成果について報告する。

1 はじめに

2020 年のコロナ禍を経て、2022 年から AXIES 年次大会現地参加が再開し、他大学の DX 取り組みを目の当たりにしたことから、本学においても DX を取り入れたいと強く決意した。そのような中、本学は 2024 年度の事業計画で「ポジティブな職場環境を構築するため、DX 推進やメンタルヘルスに関する研修を実施する。」を掲げることとなり、事務局長から DX 推進の相談を受けた。

そこで、「事務 DX 勉強会」と銘打って、演習を伴う座学を計 9 回実施後、DX 化できそうな事務案件 8 つをグループワークとして選び、1 グループ 4~6 人のメンバーと情報系職員 1 人をサポートメンバーとして構成し、同じ案件(テーマ)で各自がフローを作成し、最後に発表会を実施した。

ここでは本学事務局で 5 か月にわたり実施した事務 DX 勉強会の実施状況とその成果について報告する。

2 勉強会準備

2.1 サポートメンバーと先行メンバーの収集

本学の情報関係職員は情報顧問と私(情報図書館課長)の他、システムやネットワークを管理する部門(私が所管する情報図書館課の情報係)の 2 名と IR 関係の 2 名が在籍する。各人に意思確認を行い、本学に DX を取り込む核となるメンバーとして協力を依頼した。このメンバーは後に、勉強

会のサポートメンバーという位置づけとなる。

まずはスモールスタートとして DX に興味があるであろうと個人的に見込んでいた事務職員 10 名程度に声をかけ、2023 年 12 月から Teams 上で情報交換を行うことにした。この先行メンバーからは、事務職員がどのようなことを不便に思っているのか、DX というものをどのように考えているのか、どうやったら DX がうまくいくのかのアドバイスをもらうことになった。

2.2 勉強会の題材決めと到達目標の設定

DX を進める上で、まずは勉強会を実施することを目標とした。また、その勉強会でやるものは何が良いのかを先行メンバーに意見を求めながら考えることにした。

本学は Microsoft 365 を全学的に導入していることもあり、プラットフォームとしては Microsoft 365 上にある機能を前提とした。当初は PowerApps、Power Automate[1]共に話題に上がっていたが、PowerApps は未経験者が習得するには少しハードルが高いのではないかと結論に至り、Power Automate に的を絞った。

また、事務局の各部署から参加することが予想されたため、全参加者にとって身近にある事務処理が良いと考え、課題としては有給休暇申請のフローを題材とすることにした。

勉強会は隔週木曜日に 1 時間、3 か月程度をかけて実施する予定とした。継続して勉強会に参加してもらうために、途中で怠けないように、積み上げ形式にして、前の課題ができていないと次の

フローが作れないという内容にした。

続いて、以下の到達目標を設定した。

【到達目標】

1. Forms を使って、電子申請が作成できる
2. Power Automate を使って、事務処理の基本的なフローを自動化できる
3. 市民開発者として、ネット等で調べながらある程度自走できる

2.3 勉強会参加メンバー募集

勉強会を始めるにあたり、AXIES 年次大会での事例をもとに、「失敗してもいいじゃない!」、「やれることから自分でやってみようよ!」、「それぞれの DX があって正解なんてないよ!」、「前例に囚われないでいようよ!」という雰囲気を大切にすることにした。また、「分からない!」、「やって!」、「教えて!」ベースでは前に進まないと考え、強制ではなく参加したい人が参加するという方向性にした。

事務局に勉強会実施の了承を得るため、2024 年 6 月に事務局の管理職が集まる課長会で、勉強会について説明を行った。その後、勉強会参加メンバーを募集した結果、事務職員 90 人中 56 人(62%)の参加希望があり、こちらが予想するよりも多くの職員が DX に興味があることが分かった。



図 1 勉強会開催通知

2.4 質問できる場の準備

勉強会を実施するにあたり、教える側からの一方通行とならないよう、気軽に質問でき、また、分かる人が答えましょうという環境を提供するために、Teams のグループを作成した。

参加募集は Forms で行い、Forms から参加の意思表示が行われると Power Automate で①自動で Welcome メールを送信し、②自動で Teams のグル

ープに参加し、③自動で Teams のチャットに Welcome チャットが投稿され「これはすべて自動で行われています。勉強会に参加することで今まで手動で行っていたこれらのことが自動でできますよ!」と今後を期待できる内容でアピールした。

3 勉強会の実施

3.1 ハイブリッド+録画受講

勉強会は、情報教室(デスクトップ PC が設置されている、ノート PC 持参可)を使い対面で実施しつつ、Teams でリアルタイム配信、あわせて Teams で録画をし、リアルタイムで受講できない人は録画で受講できる形をとった。現地ではサポートメンバーが待機しており、すぐにサポートを受けることができる。自信がない人は現地で、その日時間が取れない人は録画で受講と自由度を持たせることで、途中で挫折せず、継続しやすいように配慮した。

3.2 第 1 回 導入

以下に、実施した勉強会のスケジュールを示す(表 1)。

表 1 勉強会のスケジュール

回数	勉強会内容
第 1 回	事務 DX 説明(導入)
第 2 回	Forms で申請を受け付けてみよう!
第 3 回	Power Automate でメール送信してみよう!
第 4 回	Power Automate でリストに転記してみよう!
第 5 回	Power Automate で承認アプリを使ってみよう!
第 6 回	Power Automate でエクセルに転記してみよう!

第 1 回は導入編として、まずは DX って何? を始めとして、他大学がどういった取り組みをしているのか、Power Automate を使おうとしていること、Power Automate を使うとどういったことができるかの例を挙げた。例を挙げることで、勉強会の後に自分がどういことができるようになっていのかを想像できるようにした。

【示した Power Automate でできること】

- 複数の人にそれぞれの文面でメールを自動送信(有給取得状況等)

- 添付ファイルが含まれるメールを受信したら自動的に SharePoint に保存（電子帳簿保存法対応での電子ファイル受付）
- Forms で申請を受けたら、係内周知のため Teams のチャットに自動投稿（事務 DX 勉強会参加）

また、題材は有給申請としていたが、具体的にどのようなフローを作るのか、だれが関わりどのような処理をしているのかを示した（図 2）。

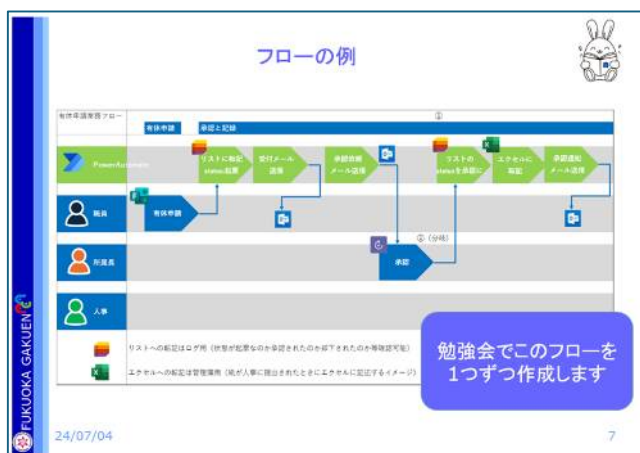


図 2 フローの例

3.3 第 2 回以降の内容

2 回目は「Forms で申請を受け付けてみよう！」とし Forms の作り方、回答の収集の仕方をレクチャした。ここでは、今まで紙でアンケート収集してきたことが、設問が簡単に作成できること、回答が自動的にエクセルで集計されていることに参加者は感動していた。

3 回目は「Power Automate でメール送信してみよう！」とし、初めて Power Automate でフローを作成すること、メールを送信することをレクチャした。初めて自動でメールを送信できた時に、参加者から喜びの声が上がっていた。

4 回目は「Power Automate でリストに転記してみよう！」とし、リストの枠の作成の仕方、そして自動で転記することをレクチャした。ここでも今まで手動で転記していたことが自動で行えることに感動する声が上がっていた。

5 回目は「Power Automate で承認アプリを使ってみよう！」で、承認アプリでの起案の仕方をレクチャした。ここではハンコ文化に浸っている本学職員からは「ハンコから解放される！第一歩？」という驚きの声が上がっていた。なお、この回は 1 時間で収まらなかったため、2 回に分けて実施し

た。

6 回目は「Power Automate でエクセルに転記してみよう！」で、エクセルのテーブル作成の仕方、転記の仕方を説明した。これにより、有給申請のフローを一通り作ることができた。

また、これらのフローにより、データベースとなるリストの作り方、自動処理を行う Power Automate のフローの作成の仕方、Power Automate でメールを出したり、リストやエクセルへの転記の仕方、承認フローの作成の仕方等、様々なフローを作成するための部品を揃えることができた。

3.4 アンケートの実施

受講者の理解度の認識や、双方向の意思疎通ができるよう随時アンケートを実施した。

【アンケート概要】

1. 参加募集時：Forms、Temas、Power Automate の経験があるかどうか、楽しみたいと考えている業務の聴取
2. 第 1 回後：勉強会で取り組む概要の理解度チェック
3. 第 3 回後：難易度や講義スピードの確認、相談事の聴取
4. グループワーク前：DX できそうな業務、できるか迷っている業務の聴取
5. グループワーク終了後：今後 DX 化を進めていけそうか、今後 DX 化しよう（したい）と考えている業務

適宜アンケートを取ることで、計画していた勉強会の進行方法を調整できた。例えばデモをする際、当初はテキストに書いている内容を先に説明しつつ画面でその操作を見せ、その後演習してもらおうとしていたが、どうしてもポイントとなるところを見逃してしまい、「これができなかった！」等の躓きがアンケートで分かったため、テキストに書いている内容を先に説明し、その後画面上で操作方法を見せ、その後演習してもらおうといった変更を加えた。

また、Forms を使っていく上で集計の必要性が出てくるが、エクセルのピボットテーブルについては別にレクチャしてほしいとの要望もあり、番外編として追加で説明会を実施した。このような臨機応変な内容が受講者のモチベーションと満足度の向上になったと考える。

4 自走への道

4.1 グループワーク再検討

勉強会を計画した当初は、演習を伴う座学を行った後、今後のDX化に繋げるために「どんな業務がDX化できるかを考えてみよう！」と題してグループワークを実施する予定であった。

しかし、座学を進める中で、「テキストに書いてあることはその通りにできるが、いざ自分でやろうとしたら果たしてできるのか?」、「部品それぞれは分かったとしても、一からフローとして自分で作成することができるのか?」という懸念が上がった。

そのため、座学が半分くらい過ぎたところで、再度立ち上げメンバーで集まり、どうすればDXが定着するかを議論した。議論の結果、グループごとにテーマ(案件)が異なるフローを各自で一から作成するグループワークに変更した(表2)。また、迷子にならないよう、グループにはサポートメンバーを一人割り当てることにした。

グループワークを実施する前に再度、今まで座学でやったことで部品はそろったこと、今後の進め方、他大学の事例、成功するための心構え、最初に行ったアンケートの振り返りを行う座学を増やした。

表2 グループごとのテーマ一覧

No.	案件
1	学生の欠席届
2	学生の自転車通学申請
3	学生の学外におけるボランティア等活動届
4	教職員の車通勤の申請
5	立替申請書
6	常備品の調達請求
7	出張届
8	ホームページの更新依頼

4.2 グループ結成と案件シート作成

グループワークをする上で、DX化したい業務(テーマ)を募集した後、さらにどのテーマに参加したいかを募った上で1グループ5名程度の8つのグループを作った。

第1回目のグループワークとして、グループ内の顔合わせを行った。香川大学のDXの取り組み[2]を参考に、自分たちでやりたいと決めたテーマの案件シートを記入してもらった。案件シートでは、現在何に困っていてどうしたら解決できるの

かを1枚の紙にまとめてもらいゴールの意識合わせを行った(図3)。

案件No. #	システム名	通学用自転車使用許可申請システム
現在の状況		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学生が学務課で申請書を入力(春休み中) ◆ 学務課でとりまとめ、一覧表を作成し許可者を選別・決裁 ◆ 使用許可の下りた学生に連絡 ◆ 使用許可の下りた学生は自動車保険の保険証券のコピーを学務課に提出し、財務課で駐車場代を支払う ◆ 学務課で駐車許可証を手交する
誰が困っている		学生・学務課員
何に困っている		学生：春休み中に大学まで来て手続しないといけない 学務課員：一覧表の作成、保険証券の提出状況の確認等時間と手間がかかる
解決方法		formsから申請を受け付けることで、受付から一覧表の作成までを自動化する。 保険証券の提出もメールでもしてもらい、決められたフォルダに格納する。
効果(KPI)		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 春休み中に来学の必要がなくなるため、問合せ対応が減る ◆ 記載漏れ、一覧表の入力ミスが減る ◆ 学務課員の負担軽減

図3 案件シート

打合せの中で各自記入後、グループ内で各々フローを発表し、最後に全グループが集まり、それぞれの成果を発表することも通知した。時間も限られているため、今後のスケジュールについても確認を行った。スケジュールは、今後2回のグループワーク、1か月後に全体の成果発表実施とした。

4.3 フロー概要の作成と発表

第1回のグループワークの後、どのようなフローになるかイメージが湧くように、こちら香川大学のDx Labを参考に、フロー概要を宿題として作成してもらうこととし、第2回のグループワークではそれを持ち寄り各自で発表することにした。



図4 フロー概要

4.4 フローの作成とデモンストレーション

第2回のグループワークの後、各自でフローの作成を行った。第3回のグループワークでは各自が作成したフローを発表し、デモンストレーションを行った。同じような目的のフローでも、少しずつ部品が違ったり、アプローチが違うものがあり、「なるほど!」となったり、「そういう部品があるのか!」とグループワーク内で気付きがある内容になった。

4.5 グループワーク成果発表会

それぞれのグループから発表者を決めて、全体での成果発表会を実施した。1グループ毎に発表8分、質疑応答4分という設定にした。私を知る限り、事務局で希望者を集めて行う勉強会はこれが初めてであったが、希望者のみの集まりということもあり、全員熱心にお互いの発表を聞き、その後それぞれのグループに情報収集に行っていた。

5 勉強会後の成果

勉強会から3か月後にICTを活用した業務改善の事例について各事務課の活用状況を確認したところ、活用事例が39件(仕掛中含む)あった。事例の一部を以下に示す。

【業務改善事例(一部)】

1. 年休の取得状況を通知するメール(個人ごとに日数が異なる)をPower Automateで一斉に自動送付
2. 化学物質のリスクアセスメントについて、使用者へ作業環境、使用量、時間等の調査をFormsにて実施し、回答の集計を自動化
3. 職員の自動車の変更手続きを書面からFormsに変更し、Power Automateでリストに自動転記
4. 学生の自転車・バイク許可申請を紙からForms申請に変更し、Power Automateで申請後の処理を実施
5. Webアプリで拾得物を入力すると学生へメールを自動で通知

6 まとめ

勉強会は希望制であったが、事務職員90人中56人参加(62%)、グループワークは90人中46人参加(51%)といずれも半数以上が参加した。

演習を伴う座学を計9回実施後(当初予定は6回であったが3回追加。うち1回は当初予定した内容を2回に分けたもの、アンケートで新たに実施したピボットテーブルのレクチャ、グループワーク前の回)、DX化できそうな事務についてアンケートを実施し、そのうち8つの案件をグループワークとして選んだ。

1グループ4~6人のメンバーと情報系職員1人をサポートメンバーとして構成し、同じ案件(テーマ)で各自がフローを作成することとした。約1か月かけて少しずつ時間を捻出し、それぞれのフローを作成した。中途のものもあったが、ほとんどのメンバーが自分自身の力でForms、リスト、Power Automateを用いてフローを作成した。グループ内で発表者を決め、発表会でそれぞれの成果を発表するとともに質疑を受けた。

本勉強会では、デジタル化するだけでなく、課を超えて業務そのものを見直すきっかけになり、まさしくDX(デジタルトランスフォーメーション)の本来の意義である「デジタル技術の活用により、業務や組織などを変革する」に通じるものとなった。

グループワークの成果であるフローは、すぐに実務に取り込めそうなもの、少し改良が必要なもの等あったが、今後学内の紙の申請書が事務職員自ら作成した電子化した内容に置き換わること、担当する業務を自ら作成したフローにより業務効率化が実現されることを期待した。そして、勉強会から3か月後には39件もの活用事例があがった。

今後は、定期的に有志で集まり、お互いの事例を発表して情報交換をしたり、躓いているところなどを共有して、お互いのモチベーションを上げて楽しく事務DX化を進めたい。

7 謝辞

本論文の執筆と事務DX勉強会実施にあたり、学校法人福岡学園情報顧問の藤村直美先生に貴重なご指導とご助言を賜りました。感謝申し上げます。

8 参考文献

- [1] Microsoft社: Power Automate
<https://www.microsoft.com/ja-jp/power->

platform/products/power-automate (2025-08-20
参照)

[2] 香川大学 Dx Lab
<https://dx-labo.kagawa-u.ac.jp/> (2025-08-20 参照)